22　　富士山の不思議　　　　　　　　　　助動詞⑦　らむ・けむ

富士の山を見れば、煙たたず。昔、父の朝臣に誘はＡ（る）て、「いかに鳴海の浦なれば」など詠みＢ（き）頃、遠江国までは見Ｃ（き）ば、「富士の煙の末も朝夕たしかに見えしものを、いつの年よりか絶えＤ（き）」とア問へば、さだかにイ答ふる人だになし。

Ⅰ　たが方になびき果ててか富士の嶺の煙の末の見えずなるらむ

『古今』の序の言葉とて、ウ思ひ出でられて、

Ⅱ　いつの世の麓の塵か富士の嶺の雪さへ高き山となしけむ

【本文チェック】

①　ア～ウの用言の、活用の種類（動詞は活用の行も）・文中での活用形を書きなさい。

　ア（　　　　　活用　　　　形）　　イ（　　　　　活用　　　　形）

　ウ（　　　　　活用　　　　形）

②（　）Ａ～Ｄの中の助動詞を、正しく活用させて書きなさい。

　Ａ（　　　　　　）　　Ｂ（　　　　　　）

　Ｃ（　　　　　　）　　Ｄ（　　　　　　）

③和歌Ⅰ・Ⅱを五七五七七に区切りなさい。

　Ⅰ　たが方になびき果ててか富士の嶺の煙の末の見えずなるらむ

　Ⅱ　いつの世の麓の塵か富士の嶺の雪さへ高き山となしけむ

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の読みを、現代仮名遣いで答えよ。

１　煙〔１〕（　　　　　　　）

２　朝臣〔１〕（　　　　　　　）

３　遠江国〔２〕（　　　　　　　　　　　　　　　）

問２　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。

１　いかに〔１〕　①（　　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　②どうして～か

　　　　　　　　　③どんなにか

問３　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　むばたまの闇のうつつはさだかなる夢にいくらもまさらざりけり

（古今和歌集）

ア　明るい　　　　　　イ　暗い

ウ　はっきりとした　　エ　ぼんやりとした

　（　　　）

２　光やあると見るに、蛍ばかりの光だになし。（竹取物語）

ア　だけでも　　イ　さえも

ウ　までも　　　エ　ほども

　（　　　）

３　仮の宿り、たがためにか心を悩まし、何によりてか目を喜ばしむる。

（方丈記）

ア　誰の　　イ　あなたの

ウ　何の　　エ　仏の

　（　　　）

【文法力 ✚】

問４　次の活用表の空欄を埋めよ。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| けむ | らむ | 基本形 |
| ○ | ○ | 未然形 |
| ○ | ○ | 連用形 |
|  |  | 終止形 |
|  |  | 連体形 |
|  |  | 已然形 |
| ○ | ○ | 命令形 |
|  |  | 意味 |

問５　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　いかなる所にかこの木はさぶらひけむ。（竹取物語）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　いとあはれなり。人の言ふらむことをまねぶらむよ。（枕草子）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　ひさかたの光のどけき春の日に　しづ心なく花の散るらむ（古今和歌集）

　　　意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

【古典常識】

問６　『十六夜日記』の作者は鎌倉中期の女流歌人で、『十六夜日記』には百首を超える和歌が記されている。また阿仏尼には歌論書『よるのつる』があり、本歌取りについての言及がある。「本歌取り」とは、和歌の修辞法の一つで、有名な古歌（本歌）の語句や趣向などを取り入れて、新たな歌をつくることである。

　　　「本歌取り」がその特徴となっている歌集を次から一つ選べ。

ア　古今和歌集　　イ　和歌集　　ウ　新古今和歌集

　（　　　）

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝ハ行四段・已然　イ＝ハ行下二段・連体　ウ＝ダ行下二段・未然

②　Ａ＝れ　Ｂ＝し　Ｃ＝しか　Ｄ＝し

③　Ⅰ＝たが方に ｜ なびき果ててか ｜ 富士の嶺の ｜ 煙の末の ｜ 見えずなるらむ

　　Ⅱ＝いつの世の ｜ 麓の塵か ｜ 富士の嶺の ｜ 雪さへ高き ｜ 山となしけむ

問１　１＝けぶり　２＝あそん　３＝とおつおうみ（とおとうみ）のくに

問２　１＝どのように

問３　１＝ウ　２＝イ　３＝ア

問４　（らむ）　○ ｜ ○ ｜ らむ ｜ らむ ｜ らめ ｜ ○

　　　　意味＝現在推量・現在原因推量・現在伝聞・現在婉曲

　　　（けむ）　○ ｜ ○ ｜ けむ ｜ けむ ｜ けめ ｜ ○

　　　　意味＝過去推量・過去原因推量・過去伝聞・過去婉曲

問５　１＝過去推量・連体形　２＝現在婉曲・連体形

　　　３＝現在原因推量・連体形

問６　ウ

【現代語訳】

問３　１　闇の中で恋人に会った現実は、（恋人の姿を）はっきりと見た夢と比べて、少しもまさってはいなかったことだ。

　　　２　光があるかと見ると、蛍ほどの光さえもない。

　　　３　仮住まいを、誰のために心を悩ませて（建て）、何のために目を喜ばせるのか。

問５　１　どんな所にこの木はございましたのでしょうか。

　　　２　オウムはとてもおもしろいものだ。人が言うような言葉をまねするとかいうことだ。

　　　３　日の光ものどかな春の日なのに、どうして落ち着いた心もなく、桜の花は散っているのだろうか。